

授業科目名 (英訳)	地球環境リスク特論 Global Environmental Risk Management					担当者所属 職名・氏名	総合生存学館 教授・山敷 庸亮				
配当学年	1 回生	単位数	2	開講年度 開 講 期	H27 後期	曜時限	月/3	授業形態	講義	使用言語	主に英語
〔授業の概要・目的〕											
<p>陸域と海域の相互連環の機能と重要性を認識した上で、それぞれの系の環境リスク要素とそのメカニズムおよび、考える解決方法・予防方法について学ぶ。また陸域が原因で環境リスクを負う沿岸海域での富栄養化現象や貧酸素化、また化学物質や放射性物質による汚染リスクについて例を交えて学習する。同時に、人工構造物がもたらす文明生活上のリスク軽減効果（治水・利水面での効果）と、環境リスクに対する影響についても、世界における巨大ダム運用の事例を元に言及する。</p>											
〔到達目標〕											
<p>陸域と海域における環境リスクを想定し、流域における開発やマネジメントを行う際に必要となる予備知識や、高度成長期における我が国の公害史やこれらを乗り越えていくプロセスにおける重要な環境事項を学び、また近年において明らかになった様々なリスクと向き合い、統合的流域管理(IRBM)の概念と、今後必要とされる統合的陸域海洋管理(Integrated Continental-Oceanic Management ICOM)の概念について、講義毎の小レポートをもとに受講者との討論を交えながら、学ぶ。</p>											
〔授業計画と内容〕											
<p>【第1回】 陸域と海域の相互連環について</p> <p>【第2回】 環境リスクとは？--原因物質、影響、評価方法</p> <p>【第3～4回】 我が国の公害史の学習-水俣病・イタイイタイ病と重金属汚染について</p> <p>【第5～7回】 陸域における環境リスク-有機物・栄養塩・化学物質・放射性物質</p> <p>【第8～10回】 海域における環境リスク-沿岸域の富栄養化・貧酸素化・汚染物質の拡散</p> <p>【第11～12回】 人間のもたらす環境リスク-人工構造物のリスク軽減効果と環境リスクに対する影響</p> <p>【第13～14回】 環境災害と環境リスクの分散--人類の考える環境負荷への緩和方法</p> <p>【第15回】 統合的流域管理(Integrated River Basin Management - IRBM)と統合的陸域海洋管理(Integrated Continental-Oceanic Management ICOM) の概念についての学習</p>											
〔履修要件〕											
特になし											
〔成績評価の方法・観点及び達成度〕											
期末レポート、講義にて説明した内容をどの程度理解しているかについて期末レポートで評価											
〔教科書〕											
印刷資料を配布する。											
〔参考書等〕											
環境の汚染とヒトの健康—健康のリスクをどう防ぐ 森澤 眞輔											
環境学原論--人類の生き方を問う--脇山・平塚編											
〔授業外学習（予習・復習）等〕											
配布した国連の英文資料などを随時学習すること。											
〔その他（オフィスアワー等）〕											
<p>リスクを見極め、解決方法を提案できる人材にならんことを心より願う。</p> <p>オフィスアワーは事前にメールにてアポをとること。yamashiki.yosuke.3u@kyoto-u.ac.jp</p>											